

実施に当たっての考え方

学校生活9年間において、子どもたちが成長し、『食』の大切さを育む、『おいしい、温かい学校給食』の提供

自校方式の給食を通じて、生徒が食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付け、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図るとともに、食生活が自然の恩恵や食に関わる人々のさまざまな活動の上に成り立っていることについて、生徒の理解を深め、感謝の心を育むよう、取り組みます。



実施スケジュール

自校方式で給食を実施するには、各中学校の敷地内に調理場を整備するとともに、校舎に配膳室や昇降機を設置する必要があります。

守山南中学校については、学習環境の改善に向けた整備のため、現在、大規模改造事業などを実施しています。給食実施のための調理場整備については、大規模改造事業などの調整が不可欠なため、現在実施中の校舎整備にあわせて平成32年度に調理場などの工事を実施し、平成33年9月からの給食開始を目指します。

そのほかの中学校については、できるだけ早期に給食を実施する観点から、平成33年度に守山中学校・守山北中学校・明富中学校の3校を同時に整備し、平成34年9月からの給食開始を基本とします。

※資料の年度は便宜上和暦(平成)で表示しています。

| 項目 | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 |
|---------------------|--------|--------|--------------|--------------|--------|
| 守山南中 | | | | | |
| ・ 建築工事 | | → | | | |
| ・ 給食準備 | | | → | | |
| ・ 給食開始 | | | ★ 平成33年9月～開始 | → | |
| 守山中・守山北中・明富中 | | | | | |
| ・ 建築工事 | | | → | | |
| ・ 給食準備 | | | | → | |
| ・ 給食開始 | | | | ★ 平成34年9月～開始 | → |

なお、今後、中学校給食の実施に当たっては、次のような事項の検討が必要であり、各中学校側と調整のうえ、取り組みます。

(1) 学校現場に関する検討事項

- ア カリキュラムの見直し
(放課後などの活動も考慮)
- イ 配膳などにおける安全確保への方策
- ウ 食育の推進およびアレルギーの対応に関する体制整備
- エ 生徒、保護者への給食開始の周知など

(2) 会計などに関する検討事項

- ア 給食費の徴収金額
- イ 給食費の徴収方法、管理方法
- ウ 給食費にかかる就学援助の対応

中学校給食の実施をより良いものとするため皆さまのご意見をお寄せください

募集期間 11月1日(木)～30日(金)

提出方法 住所、氏名(法人にあっては、法人名および代表者名)、電話番号を記入し、郵送、ファクス、メールまたは直接下記まで提出してください(持参の場合は執務時間中のみ)。
※ご意見への個別回答はいたしませんのでご了承ください。

〒524-8585 吉身二丁目5番22号 守山市教育委員会事務局学校教育課
☎(582)1143 ☎(582)9441 ✉gakkokyoiku@city.moriyama.lg.jp

中学校給食の実施方針をお知らせします

本市の中学校昼食については「家庭で作る弁当」を基本とし、さまざまな理由で弁当が持参できない家庭のために、平成24年度から「スクールランチ(指定業者による弁当の注文販売)」を実施してきました。

しかし、生徒が適切な栄養の摂取によって健康の保持や増進を促進すること、望ましい食生活を養うことなどの観点から、保護者などから中学校でも小学校と同様に給食を実施することに期待が高まってきました。

こうしたことから、市教育委員会において、平成27年度から中学校給食の実施に向けた検討を始め、このたび「中学校給食実施方針」を取りまとめました。

これまでの経過

《平成27年度》

- ・ 中学校の昼食に関するアンケート調査を実施

《平成28年度》

- ・ 中学校昼食外部検討委員会による検討
「本市の中学校においても『給食』実施を検討することが望ましい」と教育長に提言。
- ・ 守山市議会中学校昼食検討ワーキングチームによる議論
「中学校の昼食について給食を導入していくことは、避けて通ることのできない時期である」と市長に提言。

《平成29年度》

- ・ 市教育委員会において「中学校給食実施の基本的な考え方(案)」を取りまとめ
「本市における中学校給食の実施方式は『自校方式』を基本とする」と取りまとめた。

《平成30年度》

- ・ 「中学校給食実施方針」を取りまとめ

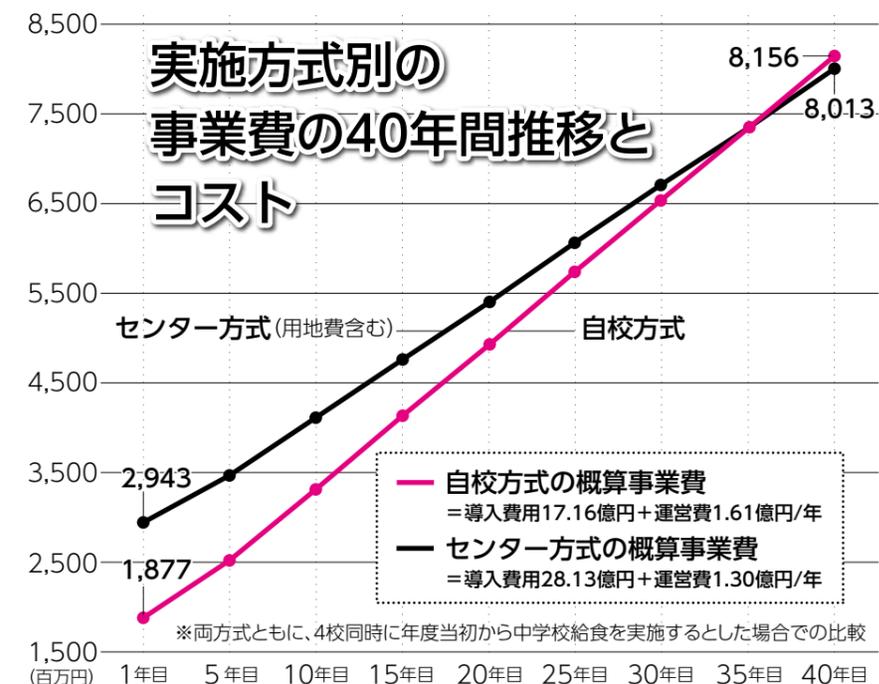
実施に当たっての財政比較

自校方式(学校の敷地内で調理する方式)とセンター方式(給食センターで調理する方式)について、比較検討を行った結果は右表のとおりです。

年間の運営費はセンター方式の方が安価になりますが、調理場整備費など初期投資はセンター方式が自校方式を上回ります。

実施方針

これまで培ってきた本市の小学校給食の良さを継承し、自校方式により中学校給食を実施するものとします。



自校方式のメリット

- ア 温かい給食や生徒の状況に沿ったきめ細やかな対応ができる。
- イ 調理場が身近にあることや調理従事者との触れ合いなどを通して、食の重要性・必要性への理解が深められ、残飯を減らすとともに食育推進を図ることができる。
- ウ 給食の配送に当たって、天候や交通事情の影響を受けにくく、安定した給食提供を図ることができる。
- エ 全ての中学校が避難所に指定されており、災害時における調理機能を備えることができる。